

沖縄 プロフェッショナルズ

30

このコーナーでは、それぞれの仕事を通して、よりよい
沖縄、暮らしの創造を目指すプロフェッショナルな仕事
人を取り上げます。

琉球プロトコール協会
マナー&プロトコール

代表 伊禮典子さん



琉球プロトコール協会の代表・伊禮典子さんは、保育士として29年間働いた後、マナー講師へと転身しました。異色のキャリアにも思えますが、「躰(じつげ)もマナーもすべて線でつながっています」と話します。

保育士からマナー講師へ転身

往年の映画「ローアの休日」映画の中でオードリー演じるアミ王女が、右足をかがめて敬礼を示すシーンがあります。この優雅な動作は「カーツシ」ですが、国際交流の場で女性が行う最敬礼。じつは、この動作は「プロトコール(世界共通マナー)」にのっとったものなんです。よ、と伊禮さんは説明します。

スキルです」

外国からのお客さまをおもてなしする時、プロトコールに沿うことで、よりよい交流ができます。さらに「ビジネスマナーは、プロトコールを簡素化したもの」といひ、プロトコールを身に付けていれば、ビジネス

ビジネスの場においても失礼がないようにしつかり対応できると強調します。

29年間、保育士として保育の現場にいた伊禮さん。働きながら礼儀作法を学び、退職後に教室を開きました。当初は日本の礼儀作法を教えていましたが、「世界を見てみたい」という思いから、あらためてプロトコールを習得しようと決意。5年間、東京の教室に毎月通い資格習得。その後琉球プロトコール協会を設立し、プロトコールの指導者となりました。

現在は沖縄市久保田でマナー&プロトコールスクールを運営するほか、社会人マナーのセミナーを開催し、専門学校講師ほか、自治体、企業、学校、保育園・幼稚園などで保育指導・家庭教育、マナーの講師を務めるなど、日々忙しく活動しています。

保育士からマナー講師への転身は大きな方向転換にも思えますが、躰もマナーもコミュニケーションをとる基礎になるもの。「両方の指導ができている今、とても充実しています」と明るい笑顔で話してくれました。(第1・3週に掲載)

琉球プロトコール協会

☎090(0)787)1451